

2. 火山の概況 (平成 15 年 2 月 20 日 ~ 平成 15 年 2 月 26 日)

十勝岳では微動があった。北海道駒ヶ岳では一時的にごく小規模な地震が増加した。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では孤立型微動の多い状態が継続した。霧島山では微動があった。諏訪之瀬島では連続微動があった。

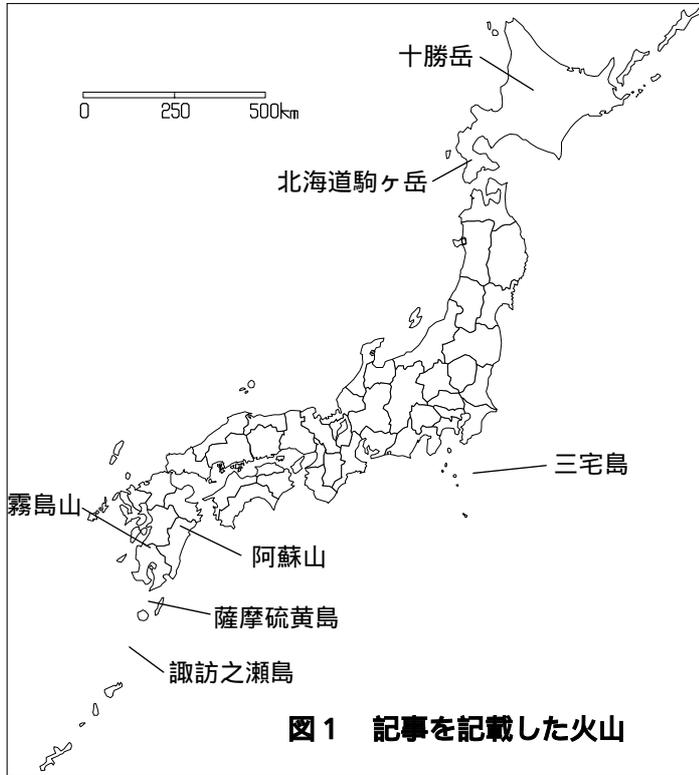


図 1 記事を記載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	摩周	十勝岳	北海道駒ヶ岳	岩手山	浅間山	三宅島	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
9	2/20- 2/26											
8	2/13- 2/19											
7	2/ 6- 2/12											
6	1/30- 2/ 5											
5	1/23- 1/29											
4	1/16- 1/22											

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

十勝岳 [微動]

25 日 19 時 32 分頃から、継続時間が約 21 分間の微動（最大振幅 0.1 μm）が観測された。微動の発生は 8 日（臨時火山情報を発表）以来である。今回の微動は、8 日に発生した微動に比べて振幅は約 4 分の 1、継続時間は半分程度であった。なお、微動の発生前後に地震の増加はなく、噴煙の状況にも特に変化はなかった。

北海道駒ヶ岳 [地震]

ごく微小な地震が 25 日以降一時的に増加した。山頂付近に設置している臨時観測点で観測された地震回数は、25 日 41 回、26 日 46 回で、26 日 15 時以降は減少している。いずれの地震も振幅は小さく、山麓の観測点（A 点：火口の西南西約 4 km）で計数の基準に達する地震はなかった。なお、今回の地震活動に伴う噴煙や地殻変動の変化はなかった。

三宅島 [噴煙・火山ガス]

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m（21 日）であった（前期間 800m）。

震度 1 以上を観測した火山性地震、振幅のやや大きな低周波地震の発生はなく、総じて地震活動は低調であった。なお、12 日 22 時 13 分に三宅島西方沖約 10km で発生した地震（M（マグニチュード）4.7）の余震は引き続き発生しており、23 日 10 時 26 分に発生した地震（M3.7）では、三宅島神着で震度 2 を観測した。

25 日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。なお、気象条件が悪く、二酸化硫黄の放出量は測定できなかった。

GPS 観測では、収縮の傾向にあった三宅島の地殻変動は収縮率が小さくなり、静穏期にもみられるわ

ずかな膨張に転じている。

* 警視庁の協力による

阿蘇山 【微動・熱】

孤立型微動の多い状態が継続しているが、今期間の発生回数は、1日当たり97~139回、合計は799回（前期間1,021回）と、減少傾向がみられる。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり0~14回で、合計は29回であった（前期間88回）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上500m（25日）であった（前期間600m）。

25日に実施した中岳第一火口の観測では、赤外放射温度計による最高温度は426（前回（17日）475）と依然高い状態であった（以上図2）。火口内は依然全面湯だまり、色は緑色で、最高温度は58（前回（17日）57）と特に異常な変化はなかった。

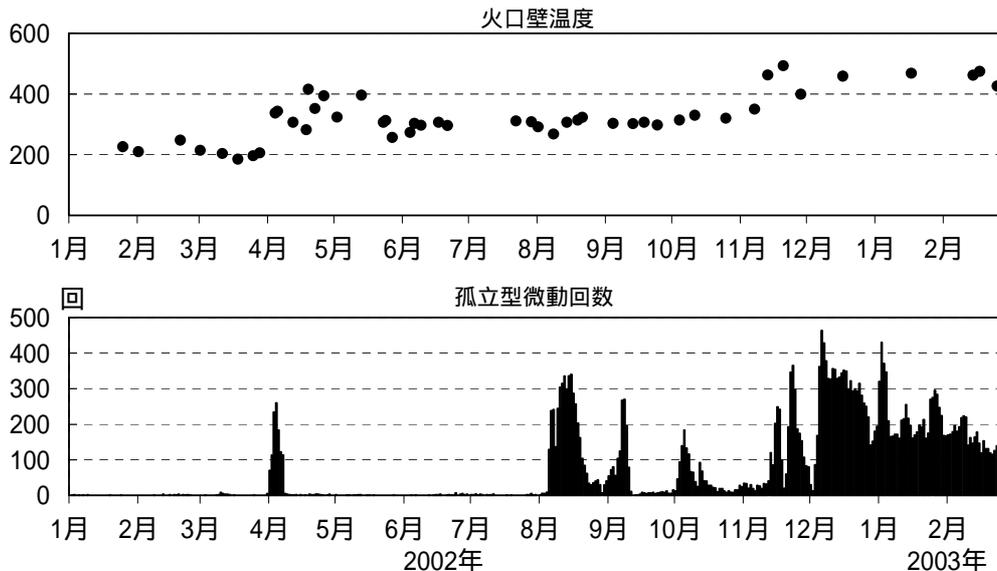


図2 阿蘇山 中岳第一火口南側火口壁温度（上図）
孤立型微動日別回数（下図）
（2002年1月1日～2003年2月26日）

霧島山 【微動】

御鉢付近が震源とみられる微動が、21日に1回（東京大学地震研究所高千穂西観測点による継続時間は3分）、25日に1回（同1分）、26日に2回（同2分と1分）の計4回発生した。微動の発生は昨年10月20日以来である（以上図3）。なお、今回の微動に伴う噴煙や地震活動の変化はなかった。

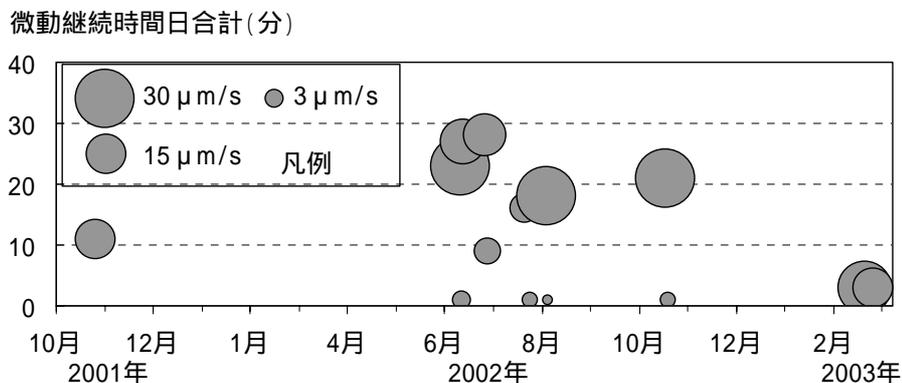


図3 霧島山 御鉢付近を震源とする微動 継続時間（日合計）と
最大振幅（2001年10月～2003年2月）
東京大学地震研究所高千穂西観測点による。

薩摩硫黄島

火山活動の活発化を示す連続微動は、今期間は発生しなかった。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり6～9回、合計は50回であった（前期間48回）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上600m（20日）であった（前期間400m）。

諏訪之瀬島 [微動・空振]

期間中、爆発は発生しなかった（前期間もなし）。

火山活動の活発化を示す微動の発生状況は、連続微動が25日03時から発生し、26日24時現在継続中である。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり0～17回、合計は44回であった（前期間14回）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では、25日夜にかすかに襖が揺れる程度の空振があった。降灰は確認されなかった。

表2 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第97号 （1日2回発表）	20日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）
	火山観測情報第110号	26日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第8号	24日 10:00	孤立型微動が減少傾向、中岳第一火口の噴煙活動に変化なし、中岳第一火口の現地観測結果（火口壁温度は依然高い状態、湯だまりの状態に大きな変化なし）
薩摩硫黄島	火山観測情報第2号	21日 11:10	連続微動は収まった、地震活動は低調、噴煙活動に異常な変化なし